



Differin and Doctor
joining hands against acne



皮膚科専門医療機関における 痤瘡患者実態調査¹⁾

川島 眞¹ 赤松浩彦² 林 伸和¹ 渡辺晋一³
古川福実⁴ 松永佳世子⁵ 宮地良樹⁶

1: 東京女子医科大学皮膚科学教室

2: 藤田保健衛生大学医学部応用細胞再生医学講座

3: 帝京大学医学部皮膚科学講座

4: 和歌山県立医科大学皮膚科

5: 藤田保健衛生大学医学部皮膚科学講座

6: 京都大学大学院医学研究科皮膚科学

痤瘡は10～20歳代に好発する皮膚疾患であるが、症状が主に顔面に現れ、瘢痕を残すことがあるなど、患者のQOLに影響を及ぼす疾患である。特に、痤瘡は感情面のQOLを低下させ、他の皮膚疾患と比較してもその度合は深刻である²⁾。

しかし、本邦においては痤瘡治療のために医療機関を受診する患者は11.8%³⁾と少なく、薬局で購入した薬剤や化粧品の使用、エステティックサロンの施術などさまざまな対処が行われているが、必ずしも適切な治療がなされていないのが現状である。

さらに、本邦では諸外国で使用が認められている薬剤の多くが未承認であり、本邦の痤瘡治療は遅れているのが実情である。

今回、本邦における痤瘡治療の現状と問題点を探る目的で、痤瘡患者とその治療に関する新しい実態調査の結果が報告されたので、一部紹介する。

1)川島 眞, 他:臨床皮膚科, 62, 673, 2008

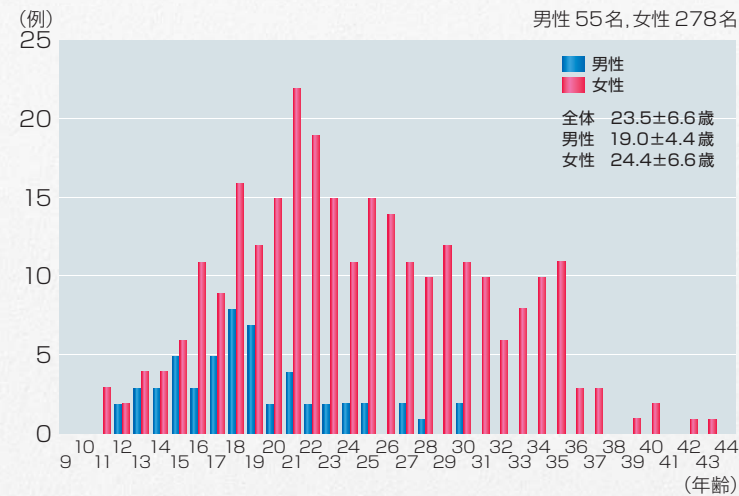
2)Lasek, R.J., et al.: Arch. Dermatol., 134, 454, 1998

3)林 伸和, 他:日皮会誌, 111, 1347, 2001

痤瘡は、患者さまのQOLを低下させています

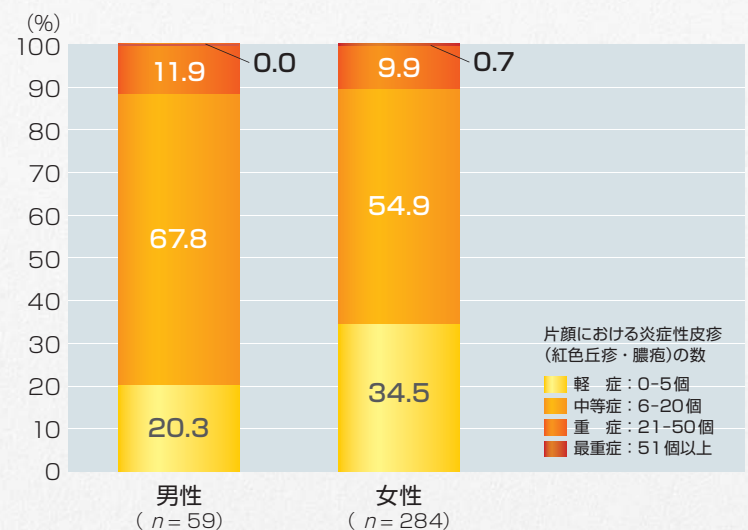
痤瘡患者の背景

対象患者の年齢分布



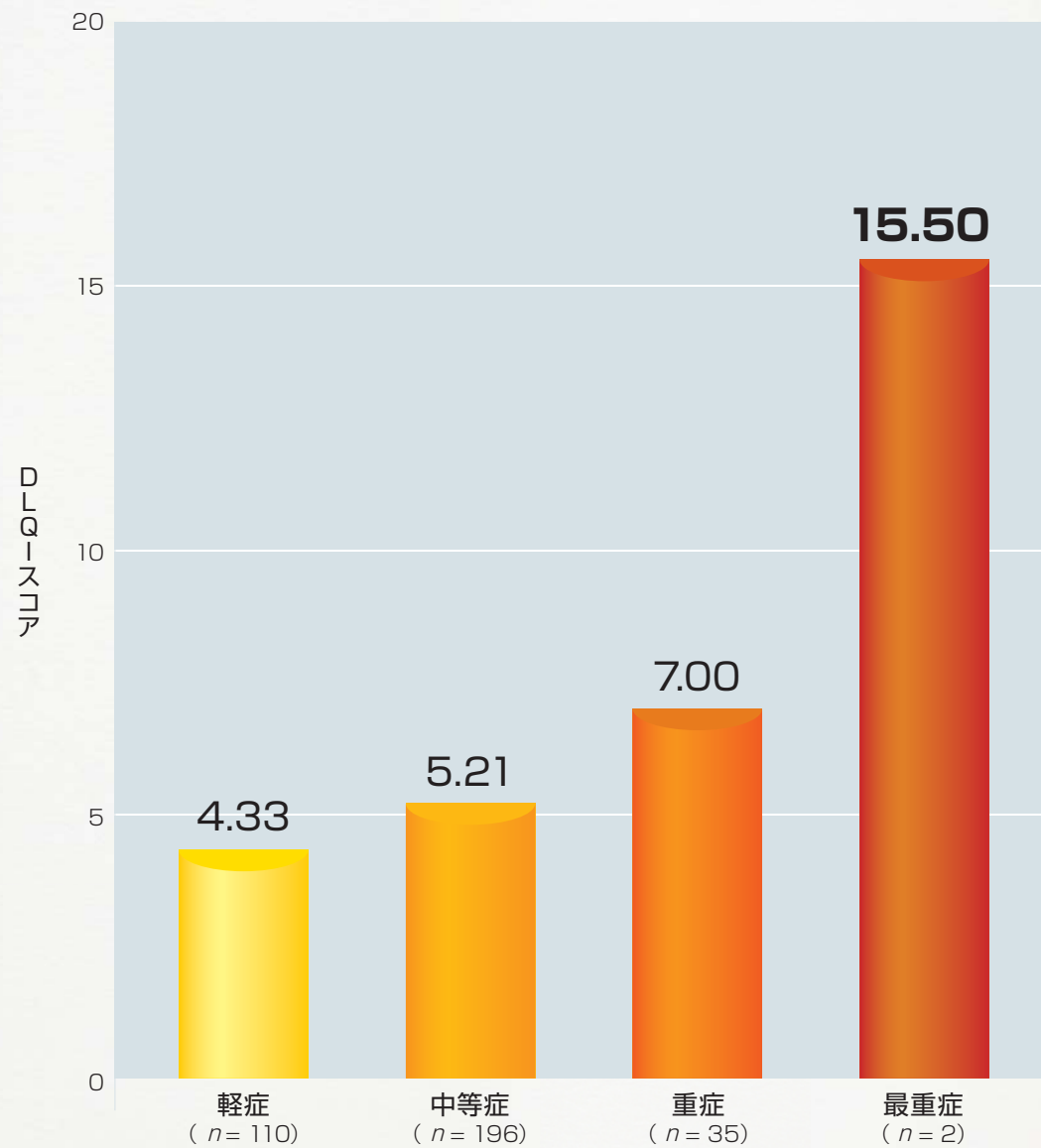
◎痤瘡患者の平均年齢(全体)は23.5±6.6歳であった。20代女性が来院患者で最も多く、男性の場合は10代の患者が多かった。
(文献1)より

対象患者の重症度



◎男女ともに、軽症から中等症の患者が80%以上を占めており、炎症性皮疹が片顔で20個までの患者が多かった。
(文献1)より

重症度別DLQIスコア*

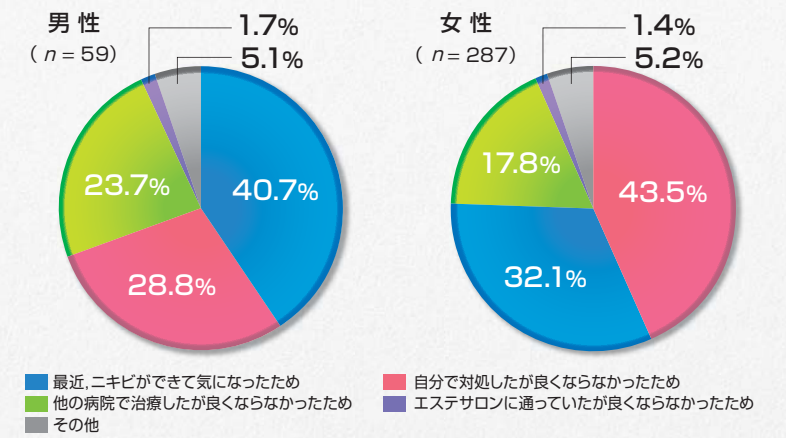


◎痤瘡の重症度に応じて、患者のQOLが低下していることが示された。軽症でのDLQIスコアは4.33であり、軽症でもQOLの低下があることが確認された。
(文献1)より一部改変

参考: Finlayらは、DLQI総合スコアが健康人0.5に対して、アトピー性皮膚炎12.5、乾癬8.9であったと報告している。
(Finlay, A.Y., et al.: Clin. Exp. Dermatol., 19, 210, 1994)

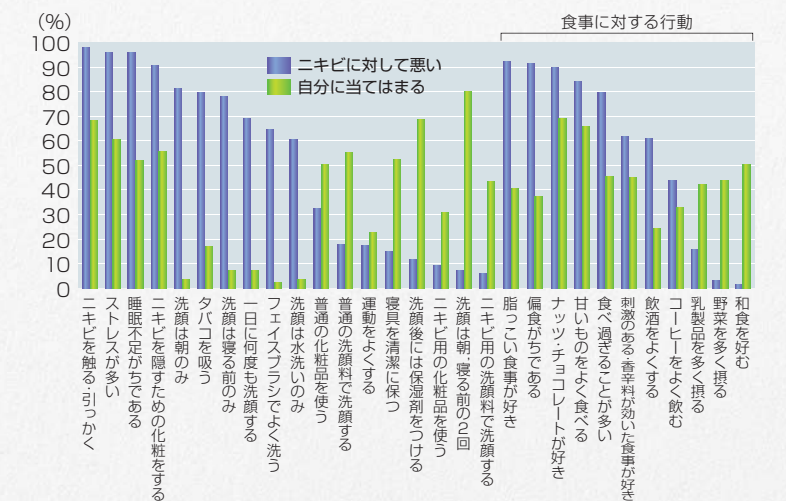
痤瘡に対する患者の対処・行動

受診理由



◎医療機関への最も多い受診理由は、男性は「最近、ニキビができて気になったため」、女性は「自分で対処したが良くならなかったため」であった。女性の場合、まずは自分でスキンケアを行って、その結果改善をみず受診する例が多いことが示された。
(文献1)より一部改変

痤瘡への対処及び行動



◎「ニキビに対して悪い」と思いながら、自分でしてしまう行動が目立った。患者には、正しい知識の伝達と適切な生活指導が必要であることが示された。
(文献1)より一部改変

痤瘡患者実態調査の調査概要

【対象】2007年9～10月に皮膚科専門医療機関34施設を受診した尋常性痤瘡患者346名及び調査協力施設の皮膚科医
【方法】調査協力施設を痤瘡のために初診した患者にアンケート調査の主旨について説明を行い、同意を得て痤瘡に関する調査を実施した。また調査協力施設の皮膚科医に対しても、現在の痤瘡治療に対する満足度を調査した。

※DLQI(Dermatology Life Quality Index)スコアの算出方法

DLQI日本語版⁴⁾を用い、全10項目の回答より数値化した。選択肢を「非常に」3点、「かなり」2点、「少し」1点、「全くない」「あてはまらない」0点とし、症状・感情、日常生活、レジャー、仕事・学校、人間関係、治療の総合スコアを算出した。

4) 福原俊一 編: 皮膚疾患のQOL評価-DLQI, Skindex29日本語版マニュアル, 照林社, 東京, p13, 21, 2004

